

～児童・生徒と地域の大人の対話会～

県民あげて取り組んでいる“いじめ・非行をなくそう”やまがた県民運動においては、学校、家庭及び地域が連携して、「いじめ・非行を許さない」環境づくりを進めることとしています。また、その一環として、児童生徒がいじめの防止・根絶や、自分たちの生活を整えることについて、地域の大人とともに主体的に考え、また具体的に取り組む契機とするため「児童・生徒と地域の大人の対話会」を実施しています。

きずなトークむらやま 村山市青少年育成市民会議

11月25日（火）県立村山産業高等学校（村山市）で、村山市青少年育成市民会議（会長 笹原茂隆氏）が「きずなトークむらやま2021」を開催しました。対話会では、村山産業高校の生徒24名、村山市民会議会員、村山警察署、高校教諭など、関係者20名が参加しました。今年のテーマは「自転車のヘルメット着用率を上げる」。村山産業高校は、令和5年度から自転車ヘルメット着用推進モデル校の指定を受け、着用率を上げるための啓発活動、駅前での呼びかけ運動、ステッカーの制作などに取り組んでいます。

初めに、村山警察署交通課長から、話題提供として、自転車事故の現状と死傷者の数、ヘルメットをかぶっていたからこそ、大切な命を守ることができた事案など、ヘルメット着用の大切さを説明していただきました。それを受け、コーディネーター役の大人が入った六つの班に分かれ、方策を話し合いました。

まずは、着用率が上がらない原因や着用しないことで起じる危険性を探りました。

これを受けて、自分たちにできる「

と、自分たちがやってみたいことをまとめ、班ごとに発表しました。発表された内容は以下のとおりです。「事故の懲りしとを確認する。（スタンスマンの実演やVR）」「校則で義務付ける。」「運気性」すぐれ、デザイン性の高いヘルメットを作る。「法律で義務化する。罰則を強化する。」などの意見が出されました。シートベルト着用が義務化された時のよう」、ヘルメット着用への義務感が、一つの流れとして社会に広がることを期待します。

今回参加した方々に感想をお聞きしました。「年齢の違う人たちと話し合つていい機会でした。様々な考えを知ることは、自分のためにもあるし、生徒会活動にも役立つと思つ。」（高校生）「高校生と直接関わる」とができる貴重な体験でした。意見を交流している中で、高校生の頭の柔軟性に驚きました。考えてくること、たくさん知ることができました。」（大人）

最後に、「今回はヘルメット着用がテーマだが、身近な課題をテーマに話し合つことは大切なこと、今回は提案された方策が、どういった効果をもたらすかも自分たちで考えた。この経験が必ず生徒会活動に活かされ、学校の活性化にもつながるだろ。地元の高校を引き続き応援していきたい。」と笹原会長は話していました。

